

TPiCS-X 生産管理ダッシュボードって何？

2010/09/24

1. 概要

このプログラムは、生産管理システム TPiCS-X Ver3.2 のデータから、管理資料や分析資料を作成する為のもので、TPiCS-X のユーザーなら無料で使用していただけます。この資料では「TPiCS-X 生産管理ダッシュボードは何が出来るのか」を取り敢えず簡単にご覧頂けるよう説明します。

ダッシュボードが正しく動作するためには、後述の様にいくつかの条件を必要としますが、エラーメッセージを無視して頂ければ、サンプルデータを通して「このダッシュボード使用すると何が分かるようになるのか」がお分かり頂けます。

2. ダッシュボードを使うと何が分かるようになるのか



① 進捗状況

昨日、或いは今日の進捗を「計画通り」「進みすぎ」「短期遅れ」「長期遅れ」それぞれの件数から円グラフにして表示します。

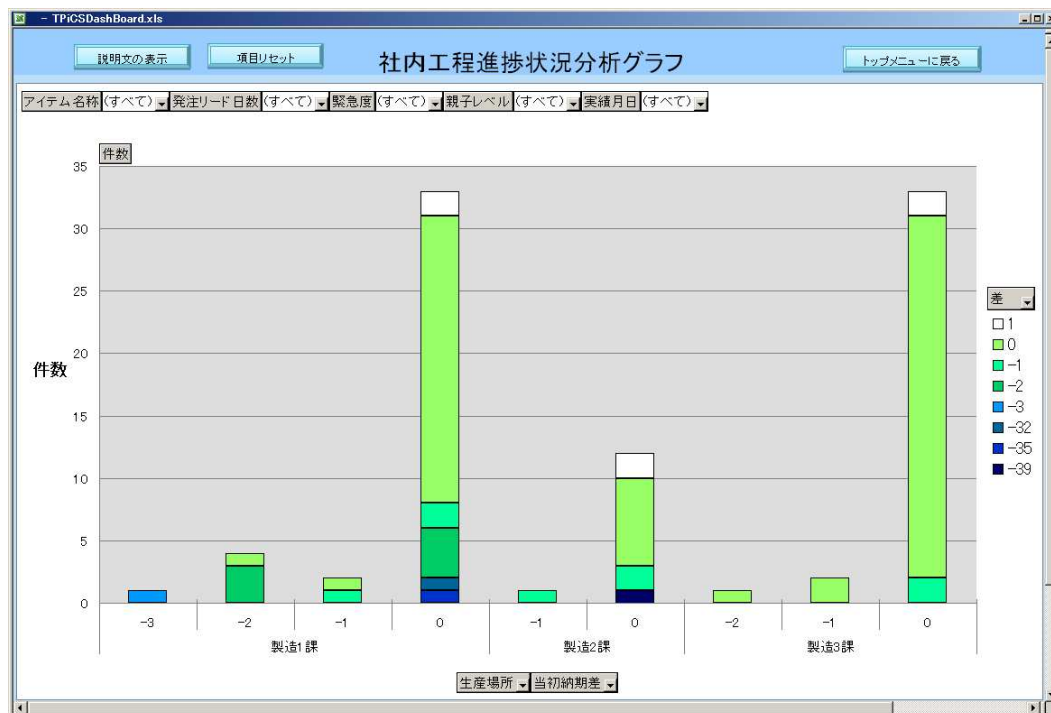
社内の工程は部署毎に集計され、社外は「購入」「外注」の単位（以下これを部門毎と呼びます）に集計表示されます。社内進捗状況は「部署の選択」で表示部署を切り替えることができます。

また支給は別に「支給」として表示し、出荷実績の進捗状況も表示されます。

円グラフをグリッドすると、遅れの原因を分析するためのピボットグラフを表示します。ピボットグラフの表示項目を操作することにより、次のような分析が行えます。

部署毎、発注先毎の進捗の分析や、日を追っての変化を見るのは当然として、材料部品や前工程の遅れを差し引いた遅れが分るので、生産遅れの責任の所在を明確にすることが出来ます。また伝票発行した時の「当初納期」を繰り上げると、その後の進捗にどのように影響を与えるか。あるいは発注リード日数割りで発注したときの遅れへの影響、工程の深さによる分析、などが出来るため非常に詳しい分析が行えます。

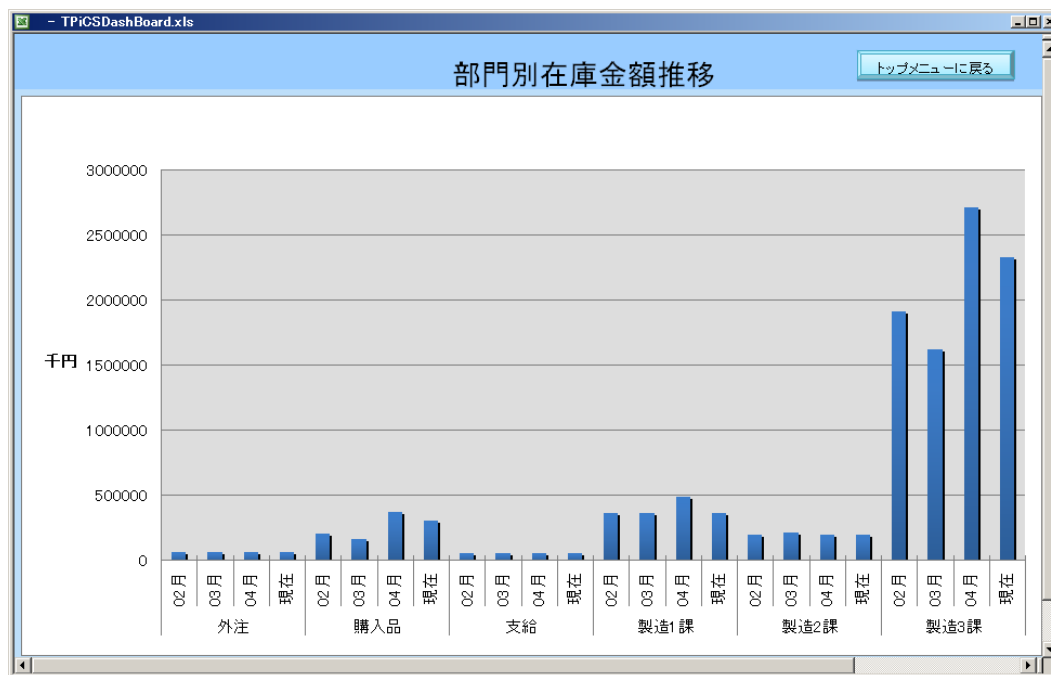
例えば下の分析グラフは、「作業伝票を発行してから当初の完了予定日を繰り上げようとする」と、製造1課は繰り上げに対応出来ないことが多いが、製造3課は何とか繰り上げた計画に対応出来ている」というようなことが分かります。



詳しくは「TPiCS-X 生産管理ダッシュボードの使い方」をご覧ください。

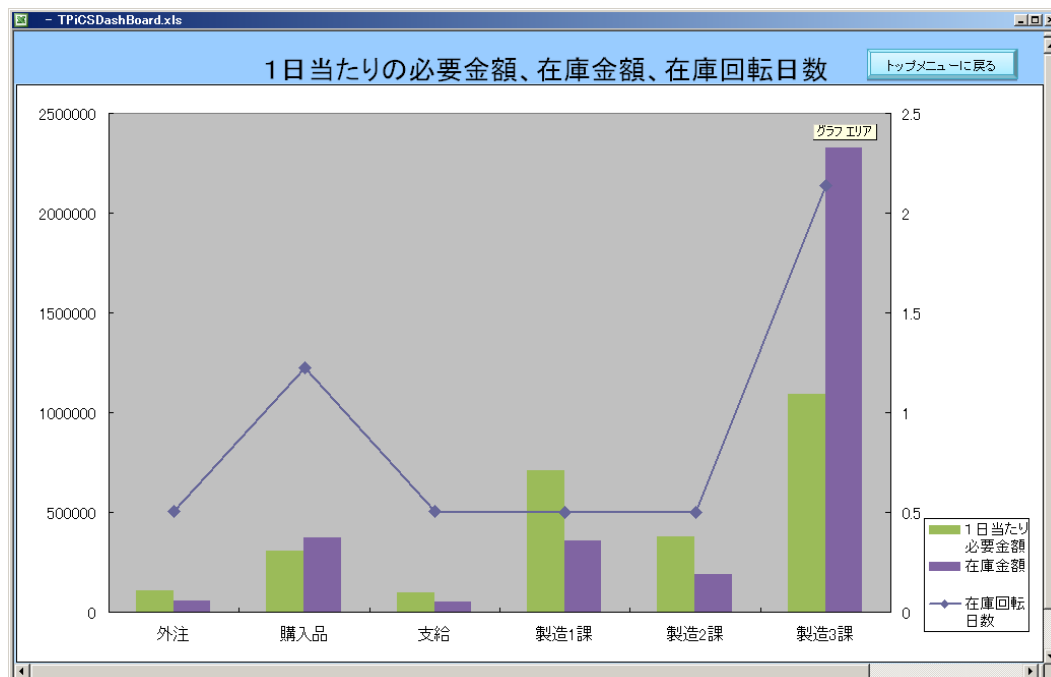
② 在庫金額変化状況

部門毎の先月末の在庫と比べ現在在庫がどう変化したかが、レーダーチャートで表示されます。レーダーチャートをクリックすると、部門毎に月を追って在庫金額の変化を見ることが出来ます。



③ 在庫回転日数

部門毎の在庫回転日数がレーダーチャートで表示されます。レーダーチャートをクリックすると、部門毎の在庫金額と、1日当たりの必要金額（出荷金額＋使用金額：子部品として使用される分）、在庫回転日数が棒グラフと折れ線グラフで表示されます。



④ 生産実績（金額）

部署毎の生産高を、指定した期間、日別に、計画ベースの金額と実績生産金額、そして金額換算した遅れ分を棒グラフで表示します。生産実績グラフは「部署の選択」で選択された部署のデータを表示します。

⑤ 作業能率達成率

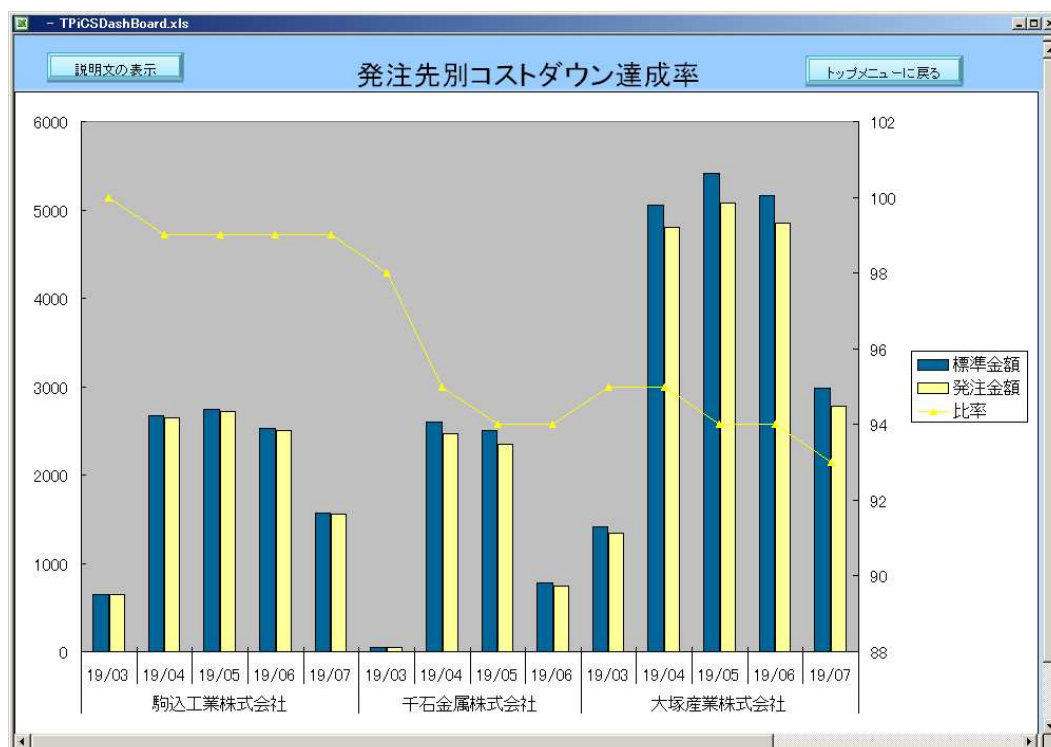
実績データの実績段取り時間+実績作業時間と、注残データ（計画データ）の段取り時間+標準時間を比べ、部署毎の達成率を、日別に棒グラフで表示します。

作業能率達成率グラフは「部署の選択」で選択された部署のデータを表示します。

⑥ 購買コストダウン達成率

購買単価マスターの「標準単価」と、注残データ（発注データ）の「発注単価」を比べ月別のコストダウン達成率として、棒グラフで表示します。

グラフをクリックすると、発注先毎のコストダウン達成率のグラフを表示します。



⑦ 受注・手配金額

受注出荷金額と手配金額のバランスを見るためのグラフが表示されます。

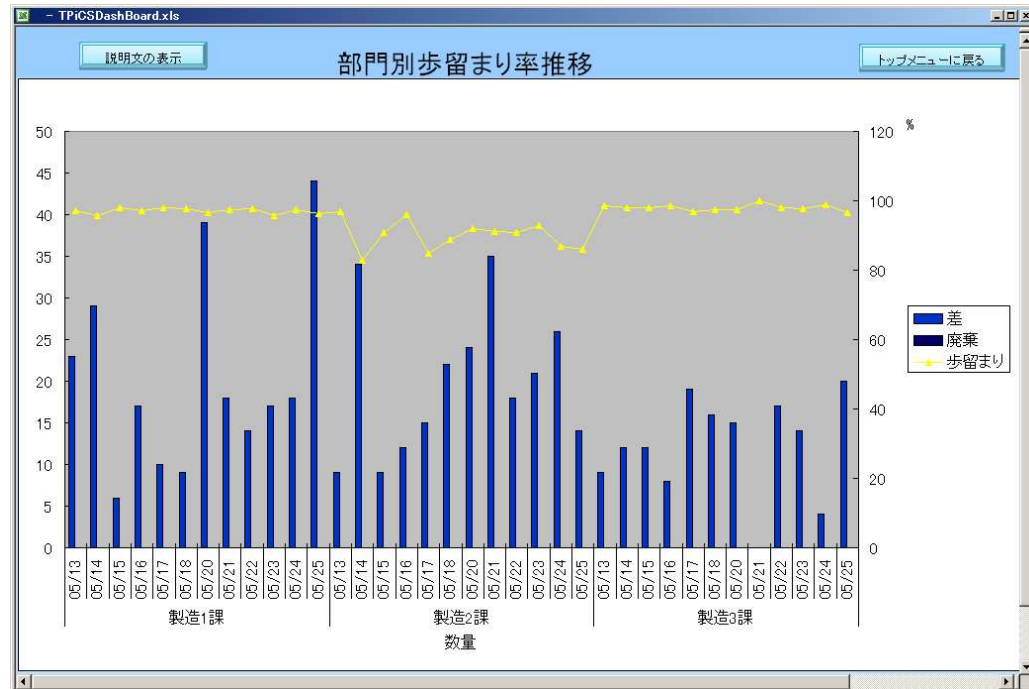
月別の、受注出荷予定金額と、未完の注残データから発生予定費用が棒グラフで表示され、それぞれの累計値が折れ線グラフで表示されます。

⑧ 歩留まり

社内全体の歩留まりを円グラフで表示します。

歩留まりグラフは「部署の選択」で選択された部署のデータを表示します。

円グラフをクリックすると、部署別のロス分と歩留まりが、日別の棒グラフと折れ線グラフで表示されます。



⑨ マスター分析

システムを上手に使えるか否かの多くの部分は、登録したマスターの良否にかかっています。使用している生きたデータを使って、部品（アイテム）毎に設定された値を評価しやすく表示します。

⑩ 不使用在庫

部品（アイテム）毎に、最後に使用された日、最後に入庫したデータから、実績日、発注日、発注承認者などが表示されます。

3. 使い方(サンプルデータをご覧になる為には)

① Excel がある場合（Excel だけは必要です）

I. ダッシュボードが正常に動作するためには、TPiCS-X に無料添付されるシステム開発ツール StiLL がインストールされていることが必要です。しかし StiLL が無い場合も、幾つかのエラーメッセージが出るなどをご理解ければ、サンプルの画面を見て頂くことはできます。

II. TPiCS-X をインストールすると、Windows の[スタート]メニューから[TPiCS-X3.2]-[生産管理ダッシュボード]-[サンプル表示]が出来るので、そこから起動して下さい。

マクロに関するセキュリティのメッセージが出ますが、OK で進んで下さい。

StiLL が無いと、Excel のメニューバーなどが丸見えの画面ですが、トップメニューで表示されるグラフはご覧頂けます。また、この画面のボタンやグラフのタイトルバーをクリックすると、エラーメッセージが出ますが無視して下さい。また StiLL がある場合は、グラフをクリックすると明細データのグラフへジャンプします。無い場合はシートのタブ見出しをクリックして、明細グラフや分析データをご覧頂下さい。

III. 興味を持っていただけたら、StiLL をインストールしていただき、もう少し詳しく見て頂くようお願いいたします。

② 体験版 StiLL をインストールした Excel を使う場合

I. 体験版 StiLL をインストールしたら[スタート]-[TPiCS-X3.2]-[生産管理ダッシュボード]-[ダッシュボード]から起動して下さい。マクロのメッセージが出なくなります。

起動メニューの[とりあえずダッシュボードを開く]ボタンでトップメニューに入して下さい。

- II. StiLL をインストールした環境でお使い頂くと、貼られているボタンが使えるようになります。起動メニューやトップメニューで全てのデータを取得することが出来ますが、各グラフのタイトルバーをクリックすると、そのグラフに関するデータだけを再取得することも出来ます。また、幾つかのグラフはグラフ部分をクリックすることにより、明細グラフのシートへ移動することが出来ます。Excel のメニューバーやタブ見出しが消え、普通のプログラムの様な顔になります。
- III. しかし、体験版 StiLL は試用期間が 4 ヶ月に限られ、またデータベースからデータを取得できる最大件数が限られておりますので、ご自分のデータをダッシュボードに表示するには少し無理があります。

4. **ダッシュボードの正規の機能をお使い頂くためには(必要な環境)**

- ① ダッシュボードをお使い頂く PC には Excel (2003 以降) が必要です。
- ② システム開発ツールの StiLL(StiLL-X Ver1.00.019 以降)が必要です。
 - I. StiLL は、TPiCS をご購入頂くと StiLL のスタンダード版が無料添付 (プレゼント) されるので、それをお使い頂くことができます。
 - II. 複数台の PC でダッシュボードをお使い頂くためには、それぞれに Excel と StiLL が必要です。StiLL は共有版 (ランタイムライセンス) をご購入頂くことが必要です。添付されている StiLL スタンダード版には新しいプログラムを開発する機能がついていますが、共有版はそれがないためより安価です。
- ③ TPiCS-X の対応バージョンは Ver3.2 ですが、ダッシュボードだけを使う PC には TPiCS-X は必要はありません。

5. **より高度な使い方**

- ① ダッシュボードをカスタマイズなさる為には、StiLL で書かれたプログラム部分が開示されたダッシュボード (210,000 円) のご購入が必要です。

6. **従来の TPiCS ユーザーがダッシュボードをお使い頂くためには**

- ① StiLL の添付を開始したのは 2005/6 なので、それ以前のユーザー様は別途ご購入頂く必要があります。特別価格でご購入頂けるようにしました。
- ② 旧バージョンの StiLL をお持ちのユーザー様は、バージョンアップして頂く必要があります。
- ③ プログラムは、ホームページからダウンロードして頂くことが出来ます。
StiLL がインストールされている場合は、TPiCSStartDbrd.xls のダブルクリックで起動し、StiLL がない場合は、TPiCSDashBoard.xls から起動して下さい。

実際にお使いになるときは、
「TPiCS-X 生産管理ダッシュボードの使い方」をご覧ください。

以上